

# 兵庫県大学図書館協議会 研究会 事例報告1

## 業務全般における派遣とパートの活用について 現状報告

報告者:神戸芸術工科大学  
篠山和義

1

## 目 次

1. 神戸芸術工科大学の概要について  
大学・図書館の概要
2. 専任職員から派遣へ移行の背景
3. 業務委託ではなくなぜ派遣なのか
4. 選択理由
5. 現状での問題点
6. 今後の検討事項

2

# 大学の概要 1

- 設立 1989年
- 学部・大学院 (2004年10月現在)

	学生数	総定員
大学院 芸術工学研究科		
芸術工学専攻 (博士前期課程)	9名	12名
芸術工学専攻 (博士後期課程)	8名	18名
総合デザイン専攻 (修士課程)	31名	24名
芸術工学部		
環境デザイン学科	328名	320名
プロダクトデザイン学科	341名	320名
ファッションデザイン学科	180名	160名
視覚情報デザイン学科	336名	320名
合計	1,233名	1,174名

3

# 大学の概要 2 (図書館)

平成16年3月31日現在

蔵書冊数	96,898冊
学術雑誌	993種
視聴覚資料	7,343点
年間受入図書冊数	5,009冊 (昨年実績)
年間受入視聴覚資料	394点 ( 同 )

4

# 利用状況

## ■ 図書貸出状況

学生	17,932冊	利用者	12,056人
教職員	1,501冊	利用者	864人
学外者	1,675冊	利用者	928人
合計	21,108冊		13,848人

5

# 専任職員から派遣へ移行の背景

- 内部的要因 司書としての専任採用はしていない。  
組織変更に伴う人事異動が多い  
無資格者の配属・有資格者の他部署へ異動
- 外部的要因 18歳人口の減少・同一系の大学・学部の設置  
などで、競争の激化による受験生の減少。

結果： 大学全体の運営コストの見直しが行われ、  
図書館への安定的な専門職の配属とコストの削減  
を図るため、有資格者で実務経験のある派遣・パート  
の採用へと移行した。

6

## 業務委託ではなくなぜ派遣なのか

- ・指示系統の問題(派遣の場合、専任が直接指示を行う)
- ・業務ごとに委託するのが困難である。
- ・業務委託の場合、契約内容以外の仕事は依頼できない。
- ・少人数の場合、一人の館員が複数の業務をこなしている
- ・特殊コレクションの管理が難しい

7

## 選択の理由

### 派遣のメリット

- ・指示系統が一本化できる、専任と同じ時間帯での業務が可能
- ・教員との連携が取りやすい
- ・幅広く業務を依頼することができる  
(図書館全般の業務および大学行事への協力)

8

## 派遣の問題点

- ・教育・指導を専任職員が担当しなければならない(教育に時間を要する。最低1年)
- ・帰属意識が希薄  
スキルが上がれば転職の可能性がある。
- ・専門業務に従事したがる。  
(図書館本来の業務以外は敬遠傾向にある。)

9

## 取り組み方

- ・契約前に図書館専門職以外の仕事も可能かどうか確認。
- ・利用される図書館にするためには、どう対応すれば言いかという意識付けを行う
- ・専任・派遣・パートの枠を超えて意見を聞き業務改革を行う。(一体感に努めている)
- ・補助業務ではなく、主体である事の自覚と責任を持ってもらう。

10

# 今後の検討事項

- ・専任職員に対しては
  - 統括できるリーダーの養成
  - 利用者動向の調査・分析(本学の利用者は何を求めているか)
- ・派遣に対しては
  - 業務の明瞭化 (マニュアルの充実)
  - 利用サービス担当者のスキルUPための研修
  - 教員との連携強化(教育支援)
- ・図書整理の業務委託(カウンター業務充実のため)